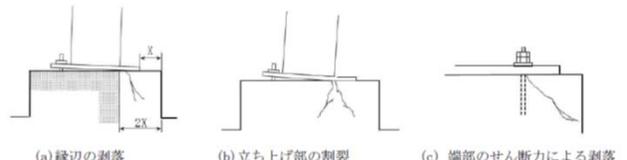
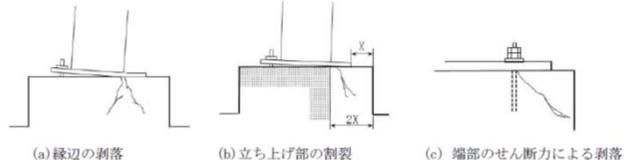


* 内容を誤解するおそれのない極めて軽微な誤りは、省略しています。

* この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/zfilebox/kenshuka/2020seigo.pdf>) でご確認ください。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考												
1	423	L12	<p>⑤の「筋かいが負担する水平力の割合に応じて地震力を割り増すこと」については、平成29(2017)年の改正により、第1第一号の表の数値によることなく、「特別な調査若しくは研究に基づき当該階の筋かいを入れた軸組の減衰性及び靱性を考慮して定めた数値」を用いることが可能となり、技術的助言(平29国住指第2167号)には、その一つとして表6.6-追1の数値が示されている。なお、表中「δu: 対象とする耐力壁の終局変形角で1/15以下の数値(rad.)」は、指定性能評価機関の定める木造の耐力壁の性能評価に係る業務方法書に定義される終局変位を変形角に換算した値、「heq: 対象とする耐力壁の等価粘性減衰定数(最大値)」は、平12建告第1457号第9第2項第一号ロに規定する等価粘性減衰定数のことである。また、既往の研究¹²⁾により、表6.6-追1に基づく数値として令第46条第4項に規定する一部の筋かいについては表6.6-追2の数値を用いることができる。なお、表6.6-追1及び追2のいずれの値を用いる場合でも、複数の筋かいを用いる場合は、各筋かいのγを計算し、各筋かいの負担水平力を重みとした加重平均を用いるか、最も大きいγを用いることができる。</p> <p>表6.6-追2 筋かいの仕様に応じた数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>筋かい仕様</th> <th>数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1.5P)</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン2P)</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>9cm角以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑥の「水平力を負担する筋かい端部、接合部、耐力壁の接合部さらに柱及びはりの仕口部並びに柱又ははりの継手部は、十分な強度を確保すること」について、令第46条第4項表1に・・・</p>	筋かい仕様	数値	厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.4	厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.3	厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1.5P)	1.3	厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン2P)	1.5	9cm角以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.0	<p>なお、令第46条第4項表1に・・・</p>	<p>別紙を原寸でプリントし、貼付・挟み込みしていただきます。</p>
筋かい仕様	数値																
厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.4																
厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.3																
厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン1.5P)	1.3																
厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材の筋かい(筋かいスパン2P)	1.5																
9cm角以上の木材の筋かい(筋かいスパン1P)	1.0																
2	430	L4	<p>ページで公開されている設計事例¹³⁾のうち・・・</p>	<p>ページで公開されている設計事例¹²⁾のうち・・・</p>													
3	430	L20	<p>12) 国土交通省、平成27年度建築基準整備促進事業「S19 木造建築物の許容応力度等計算の基準の明確化等に関する検討」成果概要、http://www.mlit.go.jp/common/001204939.pdf, 2018.8閲覧 13) (社)日本建築構造技術者協会、木造混構造の構造設計事例、・・・</p>	<p>12) (社)日本建築構造技術者協会、木造混構造の構造設計事例、・・・</p>													
4	639	付図1.2-27	 <p>付図1.2-27 柱基礎コンクリート立ち上げ部の破壊形式</p>	<p>(a)と(b)の図が逆</p>  <p>付図1.2-27 柱基礎コンクリート立ち上げ部の破壊形式</p>	<p>別紙を原寸でプリントし、貼付していただきます。</p>												
5	706	L15	<p>[付録1-3.1, 付録1-3.2 参考文献]</p>	<p>[付録1-3.2 参考文献]</p>													

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
6	728	付図1.5-1	<p>別紙参照</p> <p>a) RC1W2 b) RC1W23 c) RC12W3</p> <p>d) RC1W234 e) RC12W34 f) RC123W4</p> <p>g) RC1W2345 h) RC12W345 i) RC123W45</p> <p>j) RC12W3456 k) RC123W456 l) RC123W4567</p> <p>付図1.5-1 A_i分布と A_i'分布の比較</p>	<p>別紙参照(図中の凡例文字のズレ)</p> <p>a) RC1W2 b) RC1W23 c) RC12W3</p> <p>d) RC1W234 e) RC12W34 f) RC123W4</p> <p>g) RC1W2345 h) RC12W345 i) RC123W45</p> <p>j) RC12W3456 k) RC123W456 l) RC123W4567</p> <p>付図1.5-1 A_i分布と A_i'分布の比較</p>	<p>別紙を原寸で プリントし、貼 付していただ けます。</p>